

みんなとともに笑顔いっぱい —「101」新たなるステージへ—



みんなとともに



市教委からの文書のとおり、1日早く、2学期が終わることになりました。本市でも新型コロナウイルスの感染が拡大し、本校でも、すぐそこにまで迫ってきている感覚がありました。子どもの命を守るための措置ですので、各ご家庭でも感染防止に努めてください。なお、冬休み中も、感染について何か変化がありましたら、学校まで連絡をください。では、皆さん、よいお年をお迎えください。



第2学期の皆様のご支援に感謝します。ありがとうございます。

「コロナ禍」での2学期でしたが、その制約の中で、日々の教育活動、行事等を円滑に行うことができましたのも、保護者、そして地域の皆様のお陰と感謝いたします。

振り返ると、9月には目的地を変更し、日帰りとはなりましたが、修学旅行を行うことができました。また、今年度初めての授業参観も実施することができました。

10月には運動会から形を変えたスポーツ集会「清明フェスティバル」をご覧いただきました。延期していた「創立百周年記念式典」も無事行うことができました。「市陸上競技大会」では、事前に大会に参加しての調整ができない中で「Aブロック2位」という結果を残すことができました。また、6年生、5年生の「発表」を「フリー参観」時にご覧いただきました。

11月には、「持久走大会」で目標をもって走る子どもたちの姿を、「土曜授業」を利用して見ていただくことができました。

そして、何よりも、「日々の授業」が充実し、「進度」も当初の計画どおりに進んでいます。

今後も先行きは不透明ですが、その時の「最善の道」を模索しながら、子どもたちの「よりよき成長」のために尽くしていく考えです。

【第2学期終業式 校長の話（校内放送で）】

先日、あるコマーシャルを見ました。原田泰造さんがお父さん役で、娘役の女の子と一緒に歩いています。お父さんが「今年は何もできなかったなあ」と言います。それに対して、娘が「絵本もいっぱい読んだじゃない。ママともいっぱいおしゃべりできたし。ユキは楽しかったよ。」と言います。そして、お父さんは「パパも楽しかったです。」と言います。

前回の全校集会で、コップにジュースが少しあるときに、「少ししかない」と見る見方と、「少しはある」と見る見方があることを話しました。そして、人は「少ししかない」と見るくせがあることを話しました。

今のコマーシャルでは、お父さんは「少ししかない」という見方をしています。娘は「少しはある（たくさんある）」という見方をしています。

さて、皆さんは、この2学期、「何もできませんでしたか?」、それとも「できたことがたくさんありましたか?」

私は、できるだけ、1日に1回は、校舎内を歩くようにしていました。歩いていると、いろいろな気づきがあります。

例えば、自主学習のノートの冊数が増えていたり、新しい図工の作品ができていたり、難しい漢字をたくさん練習していたり、体育でできなかった技ができるようになったり・・・、皆さんは、この2学期に「積み重ねたこと」「できるようになったこと」がたくさんあるはずですよ。

「やらなかったこと」「できなかったこと」にばかり目を向けて「反省」をするのではなく、ぜひ「積み重ねたこと」「できるようになったこと」に目を向けて、「自分がんばったんだ」「自分はちゃんとできるんだ」という「プラスの振り返り」をしてほしいと思います。それが、確かな「自信」へとつながっていきます。

もう一度聞きます。あなたが2学期に「積み重ねたことは何ですか?」「できるようになったことは何ですか?」そのことを家に帰ったら、お家の人にも話してみてください。

(後略)